

第六回 祝福をもたらす来訪神  
地域を見守る神様たち

世界中にはいろいろな神様のお話が伝えられていますが、本市には、一年に一度、その土地にだけ姿を現し、祝福をもたらす神様がいます。今回はそんな「来訪神」をご紹介します。

薩摩川内には長い歴史の中で起きた物語、育まれた文化が数多くあります。このコーナーでは、数ある薩摩川内の歴史・文化の中から、とっておきのトピックスをご紹介します。

全知の来訪神

「トシドン」

下甕島では毎年大みそかの晩、天上界にいる「トシドン」が「首切れ馬」で地上界に降り、子どもの家々を訪れます。トシドンは、いつも子どもたちを天上界から見守っていて、何でも知っています。子どもの悪い行いを戒めながらも、良い行いを褒め、翌年も良い子である約束を交わした後、「年餅」という大きな餅を与え、家を去っていきます。

子どもの姿の来訪神

「祝申そ」

久見崎町では毎年1月14日頃の夜、子どもの姿をした来訪神が現れ、町内の各家を訪れます。各家庭の玄関の土間に上がり、棒を床に突きながら「祝申そ」の歌を歌い、その家の一年の豊作などの福をもたらしませす。家の主人は、お礼に正月の飾り餅やお菓子などを渡します。

躍動する来訪神

「田の神戻し」

祁答院地域の蘭牟田地区では毎年4月10日、どこからともなく、真っ黒な顔の「田の神さあ」の「化身」が何人も現れ、田の神さあを花かごに乗せて次の一年を過ごす家へ引越します。道中、化身たちは田の神さあを据え置き、周りをグルグルと「へノコ棒」を振りかざしながら踊り、出くわした人へ「へゲロ」をなすりつけます。これにより一年間無病息災や子孫繁栄になると言われています。

この他にも皆さんの町へ、いつも見守ってくれる来訪神が訪れ、皆さんに祝福をもたらしてくれているかもしれません。来訪神とともに、皆さんのこの一年のご多幸をお祈りいたします。

■文責・問合せ 本庁文化課 文化財G(内線5232)



▲田の神戻し



▲子どもの姿で家を訪れた来訪神



▲年餅を子どもに渡すトシドン

人のとなりにならば

中内 かねさん (73)

「人のとなり」とは…文字通り、その人の隣にいて、思いを寄り添うことや人柄を表す言葉「人となり」をイメージした新コーナーで、人物や活動の紹介だけでなく、その人の思いにスポットを当てることを目的としています。

保護司(※)として、平成10年から20年以上も活動し、「自分が受け持った子どもたちの中に再犯者は一人もいないことが自慢できること」と話す中内さん。今回は、保護司としても活動しながら、「家族とともに、居酒屋「綱ごころ」を支えるおかみの思いに寄り添います。



「綱ごころ」のおかみとして「綱ごころ」の名前の由来は、もちろん「川内大綱引」から。以前は金物屋だったこのお店を「綱ごころ」と名付け、居酒屋として開店したのは平成12年の2月29日。忘れもしない、うるう年のご自分の誕生日でもある日。「大綱引は、私たち家族にとって生活の一部で、お正月みたいなものです。私や保存会副会長も務める夫の背中を見てきた子どもたちも、当然のように大綱引に関わり、共に育ってきました。市外の学校に通っている時も、何も言わなくても、大綱引の開催が近づくと自分から帰ってくる。それが私たちにとっては当たり前でした。新型コロナウイルス感染症の影響で、もう2年間開催できていませんが、それが逆に思いを強くすると思います。壁に掛けた『継承』の言葉のように。」

中内さんは続けます。「大綱引と聞くと、力強い言葉とか連想しがちですが、技術と力ではなくて「心」。綱に対する強い思いを持ってほしい。そして、ここでいつでも大綱引の談義をしてほしい。そんな思いで名付けたのが『綱ごころ』です。」

映画「大綱引の恋」キャストとの思い出  
中内さんは、映画「大綱引の恋」では、朝加真由美さん演じる「綱ごころ」のおかみ中園サチエのモノ

VOL.10 防災トピックス

このコーナーでは、防災に関する備えや避難時の注意など、日ごろから災害に備えるための情報をスポットで発信していきます。

問合先 本庁防災安全課 防災G(内線4922)



冬場の避難 準備したい物は？

適切な体温を維持できることが重要  
冬の防災は、体温の維持が重要です。暖房器具が使えなくなることもあるのでそれ以外で工夫しましょう。非常持出品の中を確認し、消費期限などのチェックと冬場の避難で必要な物、必要な物の入れ替えをしましょう。

避難する時は暖かな服装に着替え、手袋や帽子、厚手の靴下、毛布やストールもあると◎。ダウンジャケットは、小さく畳める物を防災グッズの一つに。使い捨てカイロも忘れずに。



- ダウンは肌の近くに着る  
羽毛は温度が高いと膨らみ、熱を保つ性質があるので、肌の上に直接着るのが効果的。
- 外側は風をさえぎる素材  
体温を外に逃がさないため、一番外側には空気や水を通しにくい素材の物を。
- ぬれたらすぐに着替えて  
水分の蒸発とともに体温が奪われ、低体温症になることも。ぬれた髪の毛もすぐ拭いて。

「出演者の皆さんには、本当の家族のように接していただきました。撮影期間中は、「ここに来れば誰かいるだろう」という感じで、ほぼ毎日、誰が言い出すでもなく、ほぼ全員が集まっていたらいいなと思いました。皆さんからは、今でも「お母さん」と言っていて電話がかかってくるし、鹿児島に来られた際には、必ずと言っていいほどここに顔を出してください。私が病を患った時には、ビデオメッセージで激励してくださいました。」

映画の中の家族のように、本当に今でも仲良く、お付き合いをさせていただいています。

故佐々部清監督の人柄と  
思い出のエピソード  
「映画監督と言うと、でーんと構えているイメージですけど、佐々部さんは全然そんなことなく、気さくな方でした。今からカラオケに行くと言うと「ママ、俺も行く」と一緒に行ったことが一番の思い出。お酒を飲む時はいつも「てっぺん(12時)まで」と言いながら、日が変わって2時3時まで。そんなことがしょっちゅうでした。」



▲監督が焦がしてしまったというテابلークロスは、監督との思い出そのままに今でも残されています。